

「新聞の役割と力」

富山市立米橋東部小学校 6年北嶋 啓人

毎朝、家に届く新聞を家族が順番に読んでいます。見ていると読み始めるページやじつくり読むところが、みんなちがっているのが面白いです。新聞には出産のお知らせや亡くなったお知らせ、生活するのに必要なたぐさのの情報、いいニュース、悪いニュース、ぼくの住んでいる地域のことや学校のことなど、たくさんの方が情報がつまっています。それぞれ

自分に必要な情報や、興味のあるところを選んで、家族みんなまで読めるところが他の本と違うところだと思います。日によって新聞の枚数がちがうことがあります。いいニュースが多いためだといいなとも思います。ほくは、自分の考えをまとめたり、人に伝えたりすることが苦手です。でも、新聞は正しい情報を早く伝えるため、たくさんの人に取材をしたり情報を集めたりして、責任をもて書かれています。ところが、すごいと思えます。

それに、新聞は休刊日以外、毎日家に届きます。毎日取材して記事を書く人、印刷する人、配達する人がいるということです。以前に越中座で印刷やこん包の過程を見せてもらいました。新聞には、たくさんの方の知恵や努力が詰まっています。

新聞を配達することを通して、愛のひと声運動という活動をしていることを知りました。一人暮らしの方にしてみたら心強くて安心できると思います。また、東日本大震災の

時に新聞の果たした役割について、母が話を聞きました。インターネットや携帯などが使えない時に、被災した方々の生活や心を支えたことを知りました。どちらも、新聞と新聞に関わる人達のかを感じました。

ぼくの家には兄やぼくが生まれた日の新聞や、名前が載った日の新聞、学校のことや載った日の新聞があります。少し恥ずかしいけれど、うれしい、幸せな気持ちになる新聞がこれからも増えるといいなと思います。